

畠山さんが2代目会長に！

第13回東京ふるさと普代会の集い

東京ふるさと普代会（熊谷文弥会長、会員百八十三人）の平成十三年度の総会と集いが十月二十日、会員ら五十人が出席し、東京千代田区の九段会館で行われました。十二年度の決算や十三年度の事業計画、予算を満場一致で承認後、役員改選が行われ、これまで副会長として活躍くださった畠山茂樹さん（六・黒崎出身）が新会長に就任。



東京ふるさと普代会総会で、名誉会長に熊谷さん（左、前会長）、新会長に畠山さんがそれぞれ就任しました

「ふるさと普代会」発足以来骨身を惜しまず尽力くださった熊谷文弥さん（七三、鳥居出身）は、今後名誉会長として組織を見守っていただくことになり、総会は予定通り終了。続いて畠山新会長が「私の歩んだ道」と題して記念講演を行いました。懇親会では鶴鳥神楽（恵比須舞）が披露され懐かしさのあまり涙くむ人、絨毯にあぐらを組み舞を見つめる人、各テーブルでは思い出話や近況報告に笑い声ははじけ、あちこちで普代弁を飛ばし交流を深めていました。

村出身の歌手アキさん（本名・大上畠子さん）も参加、プロの歌で参加者たちを魅了していました。



「いやあ！しばらくだったねえ。元気だったのぉ。普代の人んどうは変わりなくてだぁ」1年に一度のなつかしい集い。参加者全員この日は、普代へお里帰りです

懇親会の最後には、会員の皆さんが持ち寄った本などのオークション（競売）が行われ会場が盛り上がりました。昔懐かしい駄菓子や昆布、ワカメ、いちご煮などを家族へ土産にと買い求め、宣伝用にと持参した特産品はあっという間に完売。ふるさととは遠きにありて思うものではなく今や、身近にありて思うものです。そうですよ、皆さん。「東京ふるさと会」から、わが普代村を大いに宣伝し「三陸に普代村あり」と誇れるブランドをつくりましょう。

ふるさと普代会会長を退任して

前会長 熊谷文弥さん

大はやりであり、わが普代村でも、岩澤義雄前村長の時代の昭和六十三年（一九八八）以来村当局の肝入りで東京において準備会も何度か開催された。準備会の席上で私は大先輩の方を会長に推挙したが、準備会代表の一人が、「今のお話の方は顧問になっていただき、こ

れから組織づくりをするためには熊谷さんの会長就任が最もふさわしい」と発言され、その理由も述べたことから満場一致で私が推薦された次第であった。「ふるさと普代会」初会式の平成元年十一月二十五日は日本青年館において、文化庁後援の地方民俗芸能の発表会で普代村からも、藩政時代から連綿と伝承された鶴鳥神社の鶴鳥神楽舞もあつた。祖先以来の宮司の家に生まれ、子どもの頃から親しんだ鶴鳥神楽をこの東京で拝観することができた私は感動のあまり涙を流しながらみていた。「ふるさと普代会」は、平成二年の第二回からは交通も便利で会場費も安く、総会当日会員に販売する村の産物なども快く前日から預かってくれる千代田区九段の九段会館で開催、以後この会場で例年開かれている。従来日曜日の開催であるが、土曜日・日曜日が休日の会社関係の幹事の要望で、二度土曜日午後開催したことがあったが出席が悪く且つ、女性会員から日曜日でないとお席できないとの声が多く、再び日曜日開催に戻った。

平 成年（一九八九）十一月二十五日東京都渋谷区日本青年館において首都圏在住の普代村出身者による「ふるさと普代会」が結成され、私が初代会長に推薦された。昭和四十年代から五十年代にかけて首都圏在住の地方出身者による、学校単位や市町村単位の親睦団体結成が大はやりであり、わが普代村でも、岩澤義雄前村長の時代の昭和六十三年（一九八八）以来村当局の肝入りで東京において準備会も何度か開催された。準備会の席上で私は大先輩の方を会長に推挙したが、準備会代表の一人が、「今のお話の方は顧問になっていただき、こ